

中国・大連における現地理理解教育の実践

前大連日本人学校 教諭

札幌市立もみじ台小学校 教諭 白川 典洋

キーワード：現地理理解教育，現地校交流，修学旅行，生活科

1. はじめに

1898年にロシアが遼東半島を租借し、ロシア語の「遙か遠い地」の意味「ダーリニ」と名付けたのが、地名の始まりで、1905年に日露戦争に戦勝した日本が占領、ロシア語の音から「大連」の漢字をあてて命名された。中国の人にとって屈辱的な日本統治は1945年までの40年間にも及んだ。

日本が無条件降伏した1945年、今度はロシア軍が駐留し、10年間のロシア統治が続く。解放後、大連市は旅順市と合併して「旅大市」に改称。さらに1981年、大連市として現在の姿となった。

社会主義体制を保ちながらも資本主義経済原理を採用し、時代の大きなうねりの中で世界にも多大なる影響をもつに至った中国。その中であって、外資系企業の進出や自由市場の活況著しい大連の日々の変化には目を見張るものがある。ビルなどは新築・改装ラッシュが続き、数日目にしなかつただけで街の景観が変わってしまうこともしばしばである。

大連市は、全国に14か所指定されている沿海開放都市の一つで、海外から多くの投資が導入され（外資系企業約1万社：2005年末調べ）、中国東北部の工業、商業、貿易等の中心となっている。特に大連港は、日本をはじめ世界140余りの国家地区と海運航路を結んでいる。

大連に進出している日系企業は2006年末現在で3184社となっている。日本を含めた外資系企業は、大連市の産業の大きな部分を担っており、特に日系企業は重要なウエートを占めている。日本との経済的な関係は深く、大連市の貿易は、輸出入とも日本が最大の相手国となっている。



【大連の町並み】

また、日本との姉妹都市提携も盛んで、北九州市、舞鶴市、七尾市、玉名市、天童市等と交流が行われており、県人会組織なども存在する。2007年10月現在、大連に長期駐在の日本人は4123人。大連日本人学校に在籍する児童生徒数は、平成19年度当初で180名あまりであった。

学校では、毎年教育課程の工夫・改善に努め、学習指導の充実を図ることを念頭に、国際理解教育、現地理理解学習など、現地ならではの教育活動にも重点を置いて実践を積み重ねてきた。ここでは、その中から、いくつかの実践について報告させていただくことにする。

2. 大連日本人学校での実践

(1) 現地校との交流

平成7年度より小学部は現地校・桃源小学校との交流会を行っている。平成18年度から、年3回の機会を設定。1回目は6月に桃源小学校が日本人学校を訪れ、2回目は9月に行われる日本人学校の運動会に桃源小学校の子どもたちを招いて、3回目は12月に日本人学校が桃源小学校を訪問して交流会を行った。平成19年度は、日本人学校の6年生が桃源小学校の運動会に参加（当初は全校で参加する予定だったが、雨天による延期、先方の日程調整お

よび開催都合上の事情で6年生のみの参加になった) することができ、年4回の機会を設けることができた。

【桃源小学校との交流会のねらい】

- ◇現地校の子どもたちとの交流を通して、お互いのことを知り、尊重し合いながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を育てる。
- ◇言葉や習慣の異なる子どもたちとの交流を通して、自分たちとの違いやそれぞれのよさを認め合い、理解し合おうとする態度を育てる。

6月と12月は、各学年の授業に参加して交流を進めた。6月に桃源小学校の子どもたちが日本人学校を訪れる時には、授業の中で中国語も必要になる場面があり、教員にとっては指示伝達のための工夫が大いに必要になる。特に派遣1年目の時は、まだ挨拶くらいの会話しか成立しない時期であるため、大きなプレッシャーがあったことを記憶している。

授業の前に、子どもたちはそれまでの中国語の学習の成果を生かして、中国語で自己紹介をしたり、中国語で書いた名刺の受け渡しをしたりして交流を図る。その後、それぞれの学年で、授業を通して交流を深める。日本人学校で交流を行う際には、1, 2年生は生活科、3年生以上では体育や総合的な学習の時間で授業を計画した。

【平成19年度：日本人学校での交流会授業計画】

学年	活動名	教科・領域	場所	主な内容
小1	折り紙で遊ぼう	生活	小1教室	折り紙遊び
小2	なかよくなろう	生活	講堂	歌遊び, ゲーム
小3	友達いっぱいゲーム	総合	小3教室	歌披露, ゲーム
小4	Let's enjoy Music	総合	音楽室	中国語の歌披露, ゲーム
小5	Let's enjoy Sports	体育	グラウンド	サッカー, ドッジボール ※雨天時は体育館でドッジボール
小6	話して! 動いて! 中日友好を深めよう	体育	体育館	鬼ごっこ, ドッジボール



【交流種目「友好の懸け橋」】

学年毎に中日混合チームを作り、また学年毎に異なる種目に取り組み、最後の6年生リレーにバトンをつなぐという内容である。5年生以下の種目については、簡単に取り組むことができ、楽しい内容のものということで考え、桃源小学校に伝えたとこ、競技の練習日程に合わせて桃源小学校の先生方が二度来校し、その様子をビデオに収めていった。「競技の様子を子どもたちに見せ、練習して当日に臨みます。」とのことだった。桃源小学校の交流会に臨む意気込みが年々確実に高まっていると感じた。

交流会を計画し、桃源小学校との打ち合わせで考慮しなければならないのは、参加する子どもの人数調整である。日本人学校は一学年20～30名。これに対し、桃源小学校は300～350名である。日本人学校を訪問してもらう際には、校舎のスペースの問題もあり、こちらの子どもと同数だと依頼することになる。桃源小学校によると、交流会に参加を希望する子どもが多く、人選するのが大変だったことだった。

9月末、日本人学校の運動会では、競技を通して交流を深めた。平成19年度の競技名は「友好の懸け橋」。

(2) 修学旅行

修学旅行は、小学部6年生と中学部2年生が合同で実施している。平成17年度までは、2年毎瀋陽と北京で行っていたが、平成20年度からは瀋陽を西安に変更して行くことになっている。

【平成19年度修学旅行のねらい】

- ◇北京の歴史・文化的な史跡や政治上の大切な役割を果たす建造物などを実際に見学することにより、中国についての理解を深め、自国・他国の文化を尊重する態度を育てる。
- ◇北京日本人学校を訪問し、自分たちと同じように海外で生活する仲間と交流することで、今後の中日友好と国際交流について考えていくための素地を培う。
- ◇異年齢集団での宿泊を伴う活動を通して、互いに思いやり尊重し合う心と、集団の一員として節度をもって行動する態度を育てる。

【修学旅行の訪問先】

八達嶺長城 少林寺武術学校 天安門広場 故宮博物院 景山公園 王府井
胡同 鼓楼 天壇公園 盧溝橋 中国人民抗日戦争記念館 北京日本人学校

平成19年度は、6月6日から8日まで2泊3日の予定で、ねらいにもあるように北京で実施した。参加児童生徒は、小学部6年生21名、中学部2年生14名、計35名。海外において行事を実施する際に何よりも気を配らなければならないのが、子どもたちの安全。綿密な計画はもちろんのこと、現地下見を2度にわたって行い、本番を迎えた。実施中の配慮事項としては、

- ①飛行機での移動のため、フライト時間の変更が心配される。⇒大連からスルーガイド（日本人）1名をつける。
- ②パスポートは全員持参する。⇒引率者が一括して管理する。
- ③班毎の活動の際には、グループ数のガイドをつけるようにする。⇒王府井でのグループ行動の際に、3名のガイドを補充する。
- ④1日3回（朝出発時、昼前後、ホテル到着時）は学校と連絡をとる。

が挙げられる。緊急時のための大使館との連絡体制も大切な要素であった。

子どもたちの事前・事後の学習は総合的な学習の時間に位置づけ、それぞれの学年での取り組みの他に、合同学習会も事前に5度、事後に1度行った。

修学旅行を終えて、子どもたちの記録を見ると、最も印象的で思い出に残ったことは、北京日本人学校との交流、次に中国人民抗日戦争記念館見学だった。中国・北京の名所・旧跡をこれだけ見学したのだから、万里の長城を友達と登ったこと、故宮や天壇公園へ行ったこと、王府井での班別行動などであろうと考えていた。中国人民抗日戦争記念館見学については、日本で学習するのとはまた違った角度から中国と日本の関係を学ぶことができたのがその理由であろうと考えられる。小学部6年生は、その後の旅順平和学習でも歴史的事実を知り学習を深め、自分たちの考えや思いを学習発表会で伝えた。北京日本人学校との交流については、日本を離れ、同じ中国という海外で生活する仲間とのふれ合いに多くのことを感じる時間であったからであろう。子どもたちにとって、この修学旅行が有意義な学習であったことは間違いない。

(3) 2年生 生活科校外学習「大連市内を見学しよう」

赴任1年目の2年生担任の時、“探検・発見”の単元で計画し、行った実践である。日本でを行う以上に子どもたちの安全確保には十分に配慮した計画が必要であり、そのための現地下見を数度にわたって行い、立案した。その計画については、小学部会で提案・検討し、その後校内の決裁を受け承認される。

【校外学習のねらい】

◇グループで協力しながら、自分たちで立てた計画に基づいて町を探検し、施設や人々、自然などとかかわりを持ち、町探検を楽しむことができる。

◇町探検で見つけたことや気付いたことを好きな方法でまとめ、成果を交流しながら町や人々への愛着を確かめたり、深めたりすることができる。

【校外学習の概要】

- ・大連マイカル総店（店内見学、買い物）
- ・労働公園（昼食）
- ・大連電視塔（山頂から市内の様子観察）

大連マイカル総店は、元は日系のショッピング・センターであったが、現在は経営に関するアドバイザーとして日本人が常駐する中国大連商場集団傘下となっている。生活用品や食料品のコーナーには、日本の商品も数多く並んでいるが、価格は日本の3倍以上であり、いわゆる高級店に属する。その分、セキュリティ面も整備されており、安心して買い物ができる場所の一つである。グループで店内を見学し、その様子を観察したり、お店の人とふれ合ったりすること、自分で立てた計画にしたがって買い物をすることを学習の柱とした。大連においては、子どもたちだけで現地の商店で買い物をする機会はまずないので、貴重な体験となった。20元（当時で約260円）のお金で、文房具を購入する計画を立てた。中国においては、スーパーマーケットの食料品売場等のレジは日本と同じシステムだが、その他においては、

①売場で商品購入証を受け取る。

②それを持って「收银机」という所に行き、お金を払い、支払証明書もらう。

③支払証明書を持って売り場に戻り、商品を受け取る。

というシステムが中心となる。実際にそんな経験もすることができた。

3. 終わりに

今思うと本当にあっという間の3年間だった。緊張のうちに過ぎた赴任1年目。新派遣教員に伝え、3年目教員を支える重要な時であり、1年目の経験を生かして、より確かな教育活動を要求された2年目。そして、先輩方が築き上げた伝統を守り、改善すべきところは改善し、次へ確実につなげることに必死に取り組んだ派遣最終年。実に多くのことを改めて学ぶことができた。

◇大事なことはやはり現地での経験。経験がものを言う。

◇行っていることは、日本と同じ。しかし、何事も早目早目の取り組みが必要。諸行事の保護者への連絡は1か月前が原則。

◇思っていたよりも、学習環境は恵まれていた。必要なことは十二分に創造性を発揮すること。

◇日本全校各地から集まった教員集団。めざすところは同じでも、多少異なる教育観。大切なことは協調性。

◇長年日本で教員をしているうちに忘れかけていた大切なことを思い出させてくれた。当たり前のことを当たり前に実践すること。何をすることもまずは子供たちの安全確保。報告・連絡・相談・調整の流れの重要性の再認識。

ここではまだまだ語り尽くせないものがある。いつの日かまた、在外で学ぶ子どもたちとの再会を夢見て…。

貴重な経験非常感謝!!